

2. 流域及び河川の自然環境

2-1. 流域の自然環境

緑川は、その源を熊本県上益城郡山都町の三方山(標高 1,578m)に発し、山岳地帯を流下して、御船川等の支川を合わせて熊本平野を貫流し、下流部において加勢川、浜戸川、天明新川を合わせ、有明海に注いでいる。緑川流域は、熊本県のほぼ中央に位置し、関係市町村は4市10町1村にまたがる。

上流部は、九州中央山地国定公園、矢部周辺県立自然公園、五木五家荘^{いつきごかのしょう}県立自然公園などに指定され、豊かな自然が残されており、これを反映して生物相も豊富である。上流部の源流付近には、アラカシやツブラジイ群落等が群生している。また、動物はカモシカ、ニホンジカ、イヌワシ、クマタカなど大型の鳥獣が山岳地域に少数分布し、溪流にはヤマメやカジカガエル等が生息している。

中流部は、段丘と近接する区間でアラカシ群落等の河畔林が水面を覆い、水際や中洲ではツルヨシ群集、メダケ群集が分布し、広い河川敷は畑地や公園として利用されている。水域には連続する瀬と淵、ワンドや中州、細流等がみられ、アユ、ウグイ、タカハヤ、オイカワ等豊かな魚類相が形成されている。瀬はアユやウグイ等の産卵場・生息場になっている。

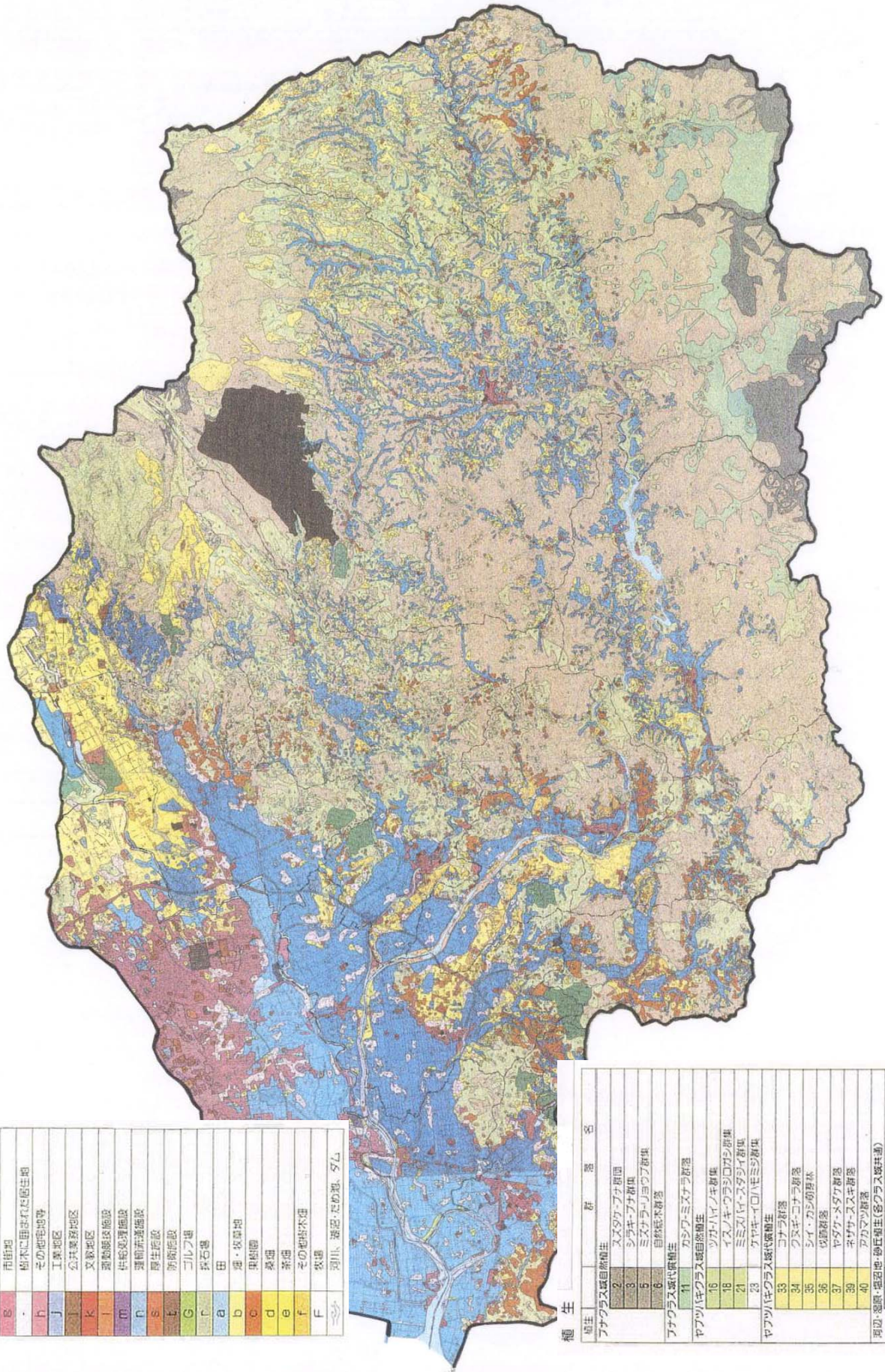
下流部は、堰の湛水区間から感潮域へと続く。水際にはヨシ、アイアシ、高水敷にはオギが大きな群落を形成している。有明海に注ぐ河口域の干潟やヨシ原は、トビハゼやムツゴロウ、サギ類やシギ・チドリ類の生息場・繁殖場となっている。

支川加勢川の上流部及び江津湖には、比較的自然環境の残された場所として、ヒラモ・コウホネ等の重要種をはじめとした多くの動植物の生息地となっている。

また、本流域には豊富な地下水脈が存在し、平野部や阿蘇外輪山麓の洪積台地末端部において水前寺、江津湖をはじめ多くの湧水や自噴帯を形成している。水前寺には清冽な湧水を利用した成趣園^{じょうじゅ}(水前寺公園)があり、熊本観光の看板となっている。

土地利用

8	市街地
9	樹木に囲まれた植生地
10	その他地等
11	工業地区
12	公共業務地区
13	文教地区
14	運動競技施設
15	住居環境施設
16	運動前通過施設
17	厚生施設
18	病院施設
19	ゴルフ場
20	採石場
21	田
22	畑・牧草地
23	果樹園
24	桑畑
25	茶畑
26	その他苗木畑
27	牧場
28	河川、湖沼、ため池、ダム



植生

植生	群	番	名
アサクラスズキ	2	スズキ	アサクラスズキ
3	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
4	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
5	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
6	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
7	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
8	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
9	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
10	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
11	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
12	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
13	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
14	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
15	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
16	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
17	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
18	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
19	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
20	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
21	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
22	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
23	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
24	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
25	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
26	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
27	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
28	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
29	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
30	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
31	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
32	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
33	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
34	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
35	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
36	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
37	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
38	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
39	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
40	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
41	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
42	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
43	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
44	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
45	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
46	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
47	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
48	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
49	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
50	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
51	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
52	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
53	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
54	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
55	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
56	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
57	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
58	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
59	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
60	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
61	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
62	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
63	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
64	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
65	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
66	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
67	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
68	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
69	スズキ	アサクラスズキ	スズキ
70	スズキ	アサクラスズキ	スズキ

図2-2 緑川植生図

2-2. 河川及びその周辺の自然環境

1) 上流部【源流～鶴ノ瀬堰付近(30/000)】

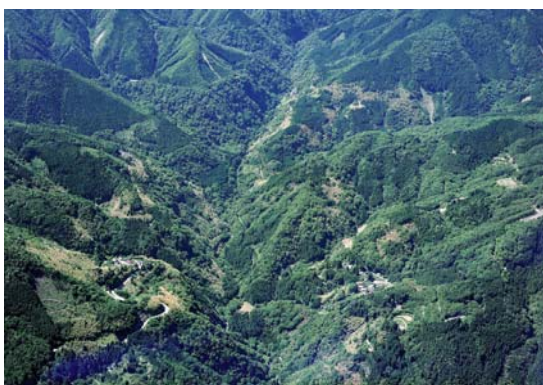
上流部は、上益城郡山都町の三方山に位置し、急峻な九州山地山岳部を流下する。地質は、古生層または中生層等の古期岩類からなり、北部は阿蘇外輪山につながり、溶結凝灰岩で形成されている。

河床勾配は 1/10～1/200 で、河床は岩で構成されている。

ブナ林が大部分を占めており、源流付近にはアラカシやツブラジイ群落等が群生し、九州中央山地国定公園、矢部周辺県立自然公園、五木五家荘県立自然公園に指定され等、豊かな自然が残されている。

河川沿いに広がる谷部には、キレンゲショウマ群落など特徴的な群落が存在する。河床勾配は急で、砂礫地にはツルヨシ等の植生がみられ、きれいな水質を好むサワガニやタカハヤなどが生息し、溪谷には天然記念物のベッコウサンショウウオが生息している。溪流にはヤマメやカジカガエル等も生息している。

緑川ダム湖は広大な止水域を鳥類等に提供していて、カモ類の越冬地として利用されている。



緑川源流域※4



緑川ダム貯水池上流※4



カジカガエル(カエル目アオガエル科) ※1



ヤマメ(サケ属サケ科) ※1

2) 中流部【鵜ノ瀬堰付近(30/000)～高田堰(14/200)】

中流部は、山地部から段丘の発達した細長い平地を緩やかに蛇行しながら流下する。瀬・淵や砂礫河原が連続し、段丘と接する河岸にはアラカシ群落等の魚付き林が分布する。河床勾配は 1/300～1/600 程度、河床材料は礫、砂礫からなり、セグメントは 2－1 から 1 である。

築地堰(17/000)下流付近から 30/000 の区間では、瀬・淵が連続しており、多様性のある水辺環境を形成している。瀬では、底生動物や付着藻類が生息・生育し、アユ、オイカワ、ウグイ、タカハヤ等の魚類の餌場となっている。礫の多い瀬では、アユの産卵場ともなっている。淵は、魚類の休息場所や稚魚の生育場所等で利用されており、緩やかな清流を好むスナヤツメ等が生息している。

甲殻類では、回遊性のあるモクズガニが、カワニナ等の貝類や小魚を捕食して生息しており、水質階級の指標生物となっているサワガニの生息も確認されている。また、巻貝の一種であり、清流を好むカワニナが生息し、同時にカワニナを餌とするゲンジボタルが水際（ワンド）で生息している。

築地堰下流(16/000～17/000)や乙女橋下流(19/400～20/600)には、広い砂礫河原が形成されている。イカルチドリやコアジサシが営巣地として利用している。

25/400～26/600 付近に分布するアラカシ群落等の魚付き林は、カワセミ等の鳥類の止まり木として利用されているほか、タカハヤ、オイカワ、ウグイ等の魚類に落ち葉や昆虫を供給する等、魚類の採餌場・休息場を提供している。

水辺では、オギ群落、ツルヨシ群落の分布が大部分を占めている。河川沿いに分布するメダケ群落は、サギ類のコロニー、ヒバリ等の営巣地として利用されている他、テン・タヌキ等、樹林地に生息するハグロトンボ等の昆虫類、小動物等を捕食する哺乳類が生息する。

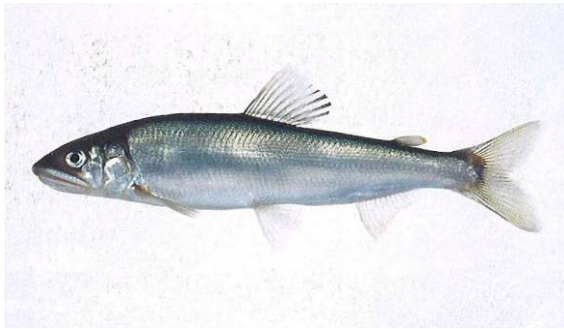


瀬と淵※4



アラカシ群落※3

- ※ 1 川の生物図典
(編集:財団法人リバーフロント整備センター)
- ※ 2 川の生物フィールド総合図鑑
(編集:財団法人リバーフロント整備センター)
- ※ 3 河川水辺の国勢調査
- ※ 4 国土交通省熊本河川国道事務所



アユ(サケ目サケ科) ※1



オイカワ(コイ目コイ科) ※1



タカハヤ(コイ科) ※1



スナヤツメ(ヤツメウナギ目ヤツメウナギ科) ※1



サワガニ(エビ目サワガニ科) ※1



イカルチドリ(チドリ目チドリ科) ※1



コアジサシ(チドリ目カモメ科) ※1



ツルヨシ群集※3

3) 下流部・浜戸川【高田堰(14/200)～河口】

下流部は、広大な熊本平野を緩やかに流れ、連続した堰（杉島堰・丹生宮堰・高田堰）の湛水区間を経て、約 8km に及ぶ汽水域が形成されている。河口部では支川浜戸川と合流する。沖積層の地質で構成されている。

堰の湛水区間では、河床勾配は 1/1000～1/3500 程度に変化し、河床材料は砂質土で構成され、セグメントは 2-1 である。汽水域及び浜戸川は、河床勾配は 1/7000 程度で、河床材料はシルト・ガタ土・砂質土で構成され、セグメント 3 である。河口域に広がる広大な干潟やヨシ原等及び汽水域では、シギ・チドリ類の生息数が比較的多く、重要種であるアリアケシラウオ等の生息地であるため、河川、河口干潟のある海域として、環境省の「日本の重要湿地 500」に指定されている。

河口から杉島堰下流の約 8k に及ぶ汽水域では、有明海特有の汽水環境が形成されている。干潟には、ムツゴロウやトビハゼ、ヤマトオサガニ、ベンケイガニ、シオマネキ、ゴカイ類等が生息している。また、アオサギやコサギ等のサギ類、シロチドリやアオアシシギ等のシ類が飛来し、泥質中に生息する底生動物を捕食する採餌場として利用している。平木橋 (3/800) 下流等の汽水域には、広大なヨシ原が形成されている。ヨシ原には、ヨシ原に依存するオオヨシキリ、オオジュリン、ツリスガラ等の鳥類が繁殖場や採餌場として生息し、アシハラガニ等のカニ類や泥質中に生息する底生動物を捕食している。また、塩沼植物のシオクグ群集もみられる。

加勢川との合流点付近には大規模なメダケ群落が形成されており、コサギやチュウサギ等のコロニーとなっている。

魚類では、コイチやコノシロ等の汽水・海水魚が生息するほか、有明海の固有種であり、重要種であるアリアケシラウオが生息しており、5/000 から 6/000 付近では、産卵が確認されている。

杉島堰(8/000)から高田堰(14/200)の湛水区間では、ヤリタナゴ等のタナゴ類やオイカワ、イトモロコ、スミウキゴリ等の生息場となっている。また、水草の茎等に落ち葉や水草を積み上げて浮き巣を作るカイツブリが生息し、水中の小魚を捕食している。

12/200～14/200 の両岸では、メダケ群落やセイタカアワダチソウ、オオブタクサ群落等の河畔林や草地が広がり、サギ類等のコロニー、コリドー、カヤネズミやテン等の営巣地、生息場となっている。草地はヒバリ、ホオジロ等の営巣地、生息地として利用されている。



干潟※3



ヨシ原※4



ムツゴロウ(スズキ目ハゼ科)※4



トビハゼ(スズキ目ハゼ科) ※1



アシハラガニ(エビ目イワガニ科)※1



アオサギ(スズキ目ハゼ科) ※1



オオヨシキリ(スズメ目ヒタキ科ウグイス亜科) ※1



チュウサギ(コウノトリ目サギ科) ※1



カイツブリ(カイツブリ目カイツブリ科) ※1



シオクグ群集※3

4) 支川御船川

支川御船川は、阿蘇外輪山を源流とし、御船町市街地を貫入して流下する。上流部は新第三期安山岩と溶解凝灰岩で、中流部は古生層・中生層の地質で構成されている。昭和 63 年 5 月の洪水を期に、昭和 63 年度から平成 4 年度にかけて、1/300～3/000、5/000～6/300 周辺では、激特事業による河道拡幅（引堤）等大規模な改修を行い、単調な河川空間が連続するが、現在では、瀬や淵等の復元もみられる。

河床勾配は 1/2500 から 1/15 と変化し、3/400 より上流では瀬と淵が連続する。河床材料は砂、砂礫、市街地周辺は岩河床であり、瀬・淵部は砂泥底となっている。セグメントは 2-2、2-1、M と変化する。

メロディ橋(4/000)付近より上流では、瀬と淵が連続して形成されている。瀬と淵が連続する水域では、底生動物や付着藻類が生育し、オイカワ、ウグイ、タカハヤ、カワムツ等の魚類が生息している。清流を好むスナヤツメやアリアケギバチ等の重要種も確認されている。浅瀬では、水質階級の指標生物であるサワガニ等が生息している。

メロディ橋(4/000)付近の水際環境では、ツルヨシ群落等の草地や止水域が広がっており、良好な環境を形成している。また、右岸側上下流の高水敷には草地が形成されており、草地は、カヤネズミやアカネズミ等の哺乳類の生息場・繁殖場となっており、ホオジロ等の鳥類の営巣地としても利用されている。

河川に沿って帯状に分布するメダケ、モウソウチクは、サギ類等のコロニーや休憩場、ヒバリ等の鳥類の営巣地として利用されている。また、アカネズミやテン、タヌキ等、樹林地に生息するツマグロキチョウ、ハグロトンボなどの昆虫類、カワセミ等の鳥類が生息している。

植生としては、ツルヨシ群落が全川的に繁茂している。



メロディ橋(4/000 付近)※4



メロディ橋下流(4/000 付近)※4



ツルヨシ群集※4



アリアケギバチ(ナマズ目ギギ科) ※1

5) 支川加勢川

支川加勢川は江津湖を源流とし、熊本市市街地の南端を流下する。上流部は新第三期安山岩と溶結凝灰岩で、中流部は古生層・中生層の地質で構成されている。昭和 63 年 5 月の洪水を契機に、全川的に築堤、河床掘削、河道の蛇行是正、旧六間堰の改築等による改修が行われている。11/600 から上流には、湧水湖であり、市民の憩いの空間として親しまれている江津湖がある。

河床勾配は 1/3100 程度で、河床材料は砂・砂礫で構成される。セグメントは 2-2 である。

加勢川の源流である江津湖は、熊本市街地でありながら、1 日に約 40 万トンの湧水が湧き出る全国でも有数の湿地である。平成 13 年 10 月に環境省から希少種・固有種が生息する湖沼や遊水地の一つとして「重要湿地」に選定されている。また、絶滅危惧Ⅰ類のスイゼンジノリ(藍藻)の唯一の生育地でもある。江津湖は豊富な湧水と小河川が交じり合い、浅瀬・深瀬等の多様な環境に恵まれ、ヒラモ等の重要種が数多く生育している。また、湧水で比較的水質がよく、餌となる魚類や水生生物が豊富であることから、ヒドリガモやマガモ等のカモ類をはじめ、チュウサギやゴイサギ等多種の野鳥も観察することができる。一方近年では、特定外来生物であるボタンウキクサが繁茂し、在来種への影響等が懸念される。

重要種である沈水・抽水性植物ヒラモ・コウホネは江津湖及びその下流部でも生育が確認されている。

魚類では、ヤリタナゴやイチモンジタナゴ等のタナゴ類が堤内の農業用水路や、旧川など堤内外の合流点付近で多く確認されている。九州には日本で生息する 15 種のうち 8 種が分布しているが、緑川では 6 種(文献を含むと 8 種)が確認されている。また、ドブガイ等のタナゴ類の産卵媒体である二枚貝やタナゴ類の稚仔魚も確認されている。ブルーギルやチカダイ等の魚食性移入魚も確認されている。六間堰、野田堰による堰の湛水区間では、オイカワやカマツカ、ギンブナ、メダカ等の生息も見られる。

植生は、水辺にはセイバンモロコシ群・オギ群落、ヨシ群落、セイタカアワダチソウ群落がみられ、10/000 周辺の中州、細流部分では、ツルヨシ、オギ、セイタカヨシ、センダン群落等、豊かな植生が見られ、チュウサギ等サギ類のコロニーとなっている。ネアカコシヤンマ等の陸上昆虫も飛来している。



江津湖(加勢川 11/600 上流)※4



旧川の様子※4



スイゼンジノリ(クロオコッカス科) ※4



コオホネ(スイレン科) ※1



ヒラモ(トチカガミ科) ※3



ボタンウキクサ(サトイモ目サトイモ科) ※3



ヒドリガモ(ガンガモ目ガンガモ科) ※1



ヤリタナゴ(コイ目コイ科) ※1



ドブガイ(イシガイ目イシガイ科) ※1



セイタカヨシ(イネ科ヨシ属) ※3

2-3. 緑川における注目すべき種

1) 希少性及び良好性の観点から注目すべき生物（重要種）

河川水辺の国勢調査およびその他の生物調査結果から、緑川水系で生育・生息が確認された種を対象に重要種の選定基準をもとに選定した結果、植物 32 種、魚類 34 種、鳥類 17 種、両生・爬虫類・哺乳類 8 種、底生植物 47 種、陸上昆虫類 17 種の合計 155 種が重要種として抽出した。

表 2-1 重 要 種 選 定 基 準

区分	選定	文献名	所管管理者	年度	内容	選定対象 ◇内略号
法律・条令	1	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律	環境庁	1992	絶滅のおそれのある野生動植物種を指定し、保護、譲渡、輸出入等を規制	国内希少野生動物種<絶滅> (対象:植物、魚類、鳥類、両生類、爬虫類、哺乳類、昆虫類)
	2	文化財保護法、文化財保護条例	文化庁 都道府県	1950	学術上価値の高い動植物等のうち重要なものを天然記念物に指定	国指定天然記念物<国天> 都道府県天然記念物<県天>
	3	自然保護法	環境庁	1964	国立・国定公園の風致の重要な構成になっている高山植物その他これに類する植物を指定	国立／国定公園特別地域内指定植物<公園>
環境省版レッドデータブック・レッドリスト	4	改訂・日本の絶滅のおそれのある野生動物 ーレッドデータブック (汽水・淡水魚類、両生類、爬虫類、哺乳類、鳥類)	環境庁 環境省	2000 2002 2003 2006	環境庁レッドリストの内容を再評価したもの	絶滅<EX>野生絶滅<EW>、 絶滅危惧Ⅰ類<CR+EN> 絶滅危惧ⅠA類<CR> 絶滅危惧ⅠB類<EN> 絶滅危惧Ⅱ類<VU> 準絶滅危惧<NT> 情報不足<DD> 絶滅のおそれがある地域個体群<LP>
		改訂・日本の絶滅のおそれのある野生動物 ーレッドデータブック (植物Ⅰ・Ⅱ)	環境庁	2000 2007		
		環境庁レッドリスト無脊椎動物 (昆虫類・陸産・淡水産貝類・クモ型類等・多足類等・甲殻)	環境庁	2000 2007	絶滅のおそれのある動物をIUCN(国際自然保護連合)が1994年に採択した新カテゴリーにより選定	
熊本県版レッドデータブック	5	熊本県の保護上重要な野生生物リスト ーレッドリスト<まもと>ー	熊本県	2004	椎管束植物、藻類、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚類、昆虫類、クモ類、陸産貝類、海洋生物	絶滅<EX>野生絶滅<EW>、 絶滅危惧Ⅰ類<CR+EN> 絶滅危惧ⅠA類<CR> 絶滅危惧ⅠB類<EN> 絶滅危惧Ⅱ類<VU> 準絶滅危惧<NT> 情報不足<DD> 絶滅のおそれがある地域個体群<LP> 要注目種<CS>
干潟レッドデータブック	6	WWW Japan Science Report ー日本における干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状ー	(財)世界自然保護基金 日本委員会	1996	干潟海岸底生動物	絶滅、絶滅寸前、危険、希少、状況不明
その他	7	第2、3回緑の国勢調査	環境庁		「日本の重要な植物群落」<重要>	重要

表 2-2 緑川の重要種一覧(1)

生物	No.	科名	種名	重要種の選定基準							緑川					浜戸川	加勢川	御船川
				1	2	3	4	5	6	7	下流① (0～8)	下流② (8～14.2)	中流① (14.2～22)	中流② (22～30)	上流 (30～源流)			
魚類	1	ヤツメウナギ科	スナヤツメ					NT			●	●	●	●				●
	2	ウナギ科	ウナギ				DD				●	●	●	●			●	
	3	カタクチイワシ科	イワシ				VU	NT			●	●	●	●		●	●	
	4	コイ科	ゲンゴロウアナ				EN				●	●	●	●		●	●	
	5		ヤリタナゴ				NT	NT			●	●	●	●		●	●	
	6		アブラコボテ				NT	NT			●	●	●	●		●	●	
	7		カネヒラ					NT			●	●	●	●		●	●	
	8		イナモシジタナゴ				CR				●	●	●	●		●	●	
	9		セボシタビラ				CR	NT			●	●	●	●		●	●	
	10		ニッポンハナタナゴ				CR	CR			●	●	●	●		●	●	
	11		カセトゲタナゴ				EN	NT			●	●	●	●		●	●	
	12		ワカ				EN				●	●	●	●		●	●	
	13		ハス				VU				●	●	●	●		●	●	
	14		カワヒガイ				NT	NT			●	●	●	●		●	●	
	15	ドンショウ科	ヤマトシマドンショウ				VU				●	●	●	●		●	●	●
	16	キキ科	キハチ				VU				●	●	●	●		●	●	
	17		アリアケギハチ				NT	VU			●	●	●	●		●	●	●
	18	シラウオ科	アリアケシラウオ				CR	CR			●	●	●	●		●	●	
	19		シラウオ					VU			●	●	●	●		●	●	
	20	メダカ科	メダカ								●	●	●	●		●	●	
	21	カリアナコ科	カリアナコ					NT			●	●	●	●		●	●	
	22	ハセ科	タビラウチ				EN	NT			●	●	●	●		●	●	
	23		ムツロウ				EN	VU			●	●	●	●		●	●	
	24		ワラスボ				VU	CS			●	●	●	●		●	●	
	25		チワラスボ				EN	CS			●	●	●	●		●	●	
	26		スミウキコリ					CS			●	●	●	●		●	●	
	27		イトハセ				VU				●	●	●	●		●	●	
	28		ハセウチ				VU				●	●	●	●		●	●	
	29		アジシロハセ					CS			●	●	●	●		●	●	
	30		スシハセ					CS			●	●	●	●		●	●	
	31		ショウキハセ				NT	CS			●	●	●	●		●	●	
	32		ヒモハセ				NT				●	●	●	●		●	●	
	33	キマ科	キマ					CS			●	●	●	●		●	●	
	34	サヨリ科	クルマサヨリ				NT				●	●	●	●		●	●	
底生動物	1	アマオブネガイ科	イシマキガイ					NT			●	●	●	●		●	●	
	2		カノガイ					DD	希少		●	●	●	●		●	●	
	3		ヒロウチカノガイ				VU		絶滅寸前		●	●	●	●		●	●	
	4	タニシ科	マルタニシ				NT				●	●	●	●		●	●	
	5		オオタニシ				NT				●	●	●	●		●	●	
	6	トウカクワニナ科	タケノカワニナ				VU	EN	絶滅寸前		●	●	●	●		●	●	
	7	ウミニナ科	ウミニナ				NT	NT	危険		●	●	●	●		●	●	
	8		クロヘナタガイ					VU			●	●	●	●		●	●	
	9	カワサンショウガイ科	ヨシダカワサンショウガイ				VU	VU			●	●	●	●		●	●	
	10		アスキカワサンショウガイ				VU	NT	危険		●	●	●	●		●	●	
	11	ワカウツボ科	ワカウツボ				NT	NT	危険		●	●	●	●		●	●	
	12		ワカウツボ				VU	VU	絶滅寸前		●	●	●	●		●	●	
	13	ミスユマツボ科	エドカミスユマツボ				NT	NT	危険		●	●	●	●		●	●	
	14	イノアワモチ科	セヘイアワモチ				CR+EN	VU	絶滅寸前		●	●	●	●		●	●	
	15	オカミカイ科	ナヒオカミカイ				VU	EN	危険		●	●	●	●		●	●	
	16		オカミカイ				VU	EN	危険		●	●	●	●		●	●	
	17	モノアラガイ科	モノアラガイ				NT				●	●	●	●		●	●	●
	18	ヒラマキガイ科	ヒラマキガイイトキ				NT				●	●	●	●		●	●	
	19	シシミ科	ヤマトシシミ				NT				●	●	●	●		●	●	
	20		マシシミ				NT				●	●	●	●		●	●	●
	21	ニョウガイ科	テリザクラガイ						危険		●	●	●	●		●	●	
	22	フナガイ科	ウネナシフナガイ				NT		危険		●	●	●	●		●	●	
	23	オキナガイ科	オキナガイ						危険		●	●	●	●		●	●	
	24		イトナガイ						危険		●	●	●	●		●	●	
	25	スナウミナナフシ科	ヒコスナウミナナフシ					DD			●	●	●	●		●	●	
	26	テナカエビ科	テナカエビ					DD			●	●	●	●		●	●	
	27	イワカニ科	モスガニ						絶滅寸前		●	●	●	●		●	●	●
	28		ヒメアサギカニ						絶滅寸前		●	●	●	●		●	●	
	29		クシテガニ					NT	希少		●	●	●	●		●	●	
	30		ベンナガイ					NT			●	●	●	●		●	●	
	31	コブシガニ科	マコブシガニ					NT			●	●	●	●		●	●	
	32	スナガニ科	ムツハラアサガニ						絶滅寸前		●	●	●	●		●	●	
	33		アリアケガニ					EN	危険		●	●	●	●		●	●	
	34		アリアケモドキ					VU	希少		●	●	●	●		●	●	
	35		シオマネキ				VU	EN	危険		●	●	●	●		●	●	
	36		ハクセンシオマネキ				VU	VU	危険		●	●	●	●		●	●	
	37	イトトンボ科	ベニイトトンボ				VU	DD			●	●	●	●		●	●	
	38	カトシホ科	アオハタシホ					NT			●	●	●	●		●	●	●
	39	サナエトンボ科	キイロサナエ					DD			●	●	●	●		●	●	
	40		ホンサナエ					CR			●	●	●	●		●	●	
	41		アオサナエ					CS			●	●	●	●		●	●	
	42		タヘサナエ					NT			●	●	●	●		●	●	
	43	イトトンボ科	キイロヤマトンボ				NT	DD			●	●	●	●		●	●	●
	44	ゼンブリ科	ヤマトゼンブリ					DD			●	●	●	●		●	●	
	45	コハナムシ科	コハナムシ				VU				●	●	●	●		●	●	
	46	ガムシ科	ガムシ					VU			●	●	●	●		●	●	
	47	クロシロコ科	イホビル					DD			●	●	●	●		●	●	

【4.環境省版レッドデータブック】

絶滅<EX>,野生絶滅<EW>,
絶滅危惧Ⅰ類<CR+EN>
絶滅危惧ⅠA類<CR>
絶滅危惧ⅠB類<EN>
絶滅危惧Ⅱ類<VU>
準絶滅危惧<NT>
情報不足<DD>
絶滅のおそれがある地域個体群<LP>

【5.熊本県版レッドデータブック】

絶滅<EX>,野生絶滅<EW>,
絶滅危惧Ⅰ類<CR+EN>
絶滅危惧ⅠA類<CR>
絶滅危惧ⅠB類<EN>
絶滅危惧Ⅱ類<VU>
準絶滅危惧<NT>
情報不足<DD>
絶滅のおそれがある地域個体群<LP>
注目目種<CS>

表 2-3 緑川の重要種一覧(2)

生物	No.	科名	種名	重要種の選定基準							緑川					浜戸川	加勢川	御船川
				1	2	3	4	5	6	7	下流① (0～8)	下流② (8～14.2)	中流① (14.2～22)	中流② (22～30)	上流 (30～源流)			
植物	1	ミズウラボシ科	ミズウラボシ					VU							●		●	
	2	ヒシタ科	テツホシタ					VU									●	
	3	ヤナギ科	イヌコリヤナギ					VU				●	●	●				
	4	アカサ科	ホリハノハマアカサ					NT			●					●		
	5		カワラアカサ					DD					●					
	6	アブラナ科	コイスカラス				NT	VU			●	●					●	
	7		イヌナスナ					NT					●				●	
	8	ユキノシタ科	タコアシ				NT	EN			●		●			●		
	9	マメ科	アカササゲ				CR	EN			●		●			●		●
	10		イヌハギ				NT	VU					●					
	11	アオイ科	フヨウ					CR									●	
	12	サクラソウ科	サクラソウ				NT	VU			●						●	
	13	シソ科	メハシキ					NT					●			●		●
	14		ミゾコウジュ				NT	NT					●		●	●		
	15		カワミドリ					VU					●			●		
	16	ナス科	ヤマホオズキ				EN	NT					●	●				●
	17	コマノハウサ科	カワチシャ				NT	NT					●	●	●	●		●
	18	トチカミ科	ヒラモ					VU	EN				●			●		
	19	ユリ科	ニラ					CR				●	●					
	20		ノカンゾウ					CR					●					
	21	イネ科	セイタカヨシ					NT					●				●	●
	22		ミチシハ					CR					●		●			
	23		コハノウシバツバ					CR		重要		●	●	●		●	●	
	24	カヤツリグサ科	シオクグ					NT			●					●		
	25		アサゲ					NT									●	
	26		ムキカラカヤツリ					GR					●				●	
	27	モクセイ科	キンモクセイ						重要		●		●			●	●	
	28	キク科	コセンダングサ						重要		●	●	●	●	●	●	●	●
	29		オナモミ				VU				●		●	●		●	●	
	30	バラ科	ウツシハ					VU					●				●	
	31	スレシ科	コオホネ					EN								●		
	32	ヒルガオ科	マダオン					CR					●					
鳥類	1	サギ科	チュウサギ				NT	NT			●	●	●				●	●
	2	トキ科	クロツラヘラサギ				CR	EN			●							
	3	カ科	ミゾ				NT	NT					●	●	●			
	4		オオカ				NT	NT			●		●		●		●	●
	5		ハイカ				NT				●		●				●	●
	6	ハヤブサ科	ハヤブサ				VU	NT			●						●	●
	7	キン科	ウスラ				NT				●						●	
	8	カモ科	スグロカモメ				VU	NT			●							
	9		コアシサシ				VU	VU					●		●	●	●	
	10	クイナ科	ヒクイナ				VU						●	●		●	●	●
	11	シギ科	ホウロウシギ				VU	NT			●							
	12	セイウカシギ科	セイウカシギ				VU										●	
	13	ワカロ科	アオハス					VU					●	●	●			
	14	セキレイ科	ヒンスイ					LP					●	●	●			
	15	サンショウクイ科	サンショウクイ				VU	DD					●	●	●			
	16	ヒタキ科	コサメヒタキ					NT					●					
	17	カモ科	オトリ				DD							●	●	●		
両生類	1	アマガエル科	カンガエル					NT					●	●	●			
	2	アマガエル科	トノサマガエル					NT				●	●	●	●			
	3		ニホンアマガエル					NT					●	●	●			
	4	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル					NT						●	●			
爬虫類	1	イシガメ科	イシガメ					NT										●
	2	スッポン科	スッポン									●	●	●	●			●
哺乳類	1	ネズミ科	カヤネズミ					NT				●	●	●	●	●	●	●
	2	イタチ科	チョウセンイタチ				NT									●		●
陸上昆虫	1	サナエトホシ科	ウチワヤンマ					DD									●	
	2	ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ				NT	CR									●	
	3	ガムシ科	ウスイロガヤヒラガムシ					CR										●
	4		ジシガムシ					CR			●		●	●	●	●		●
	5		ヒメジシガムシ					NT					●					
	6	コガネムシ科	コガネムシ					NT					●					
	7	テントウムシ科	ジュウサンホシテントウ					DD			●							
	8	ハミウ科	ヨシロベリハミウ				VU	CR			●							
	9	カクゴウムシ科	ヤマトヒメタカカクゴウムシ					DD			●							●
	10	ゲンゴロウ科	カンムリセシゲンゴロウ					CR										
	11		セシゲンゴロウ					VU				●						
	12		ホソセシゲンゴロウ					NT									●	
	13	シロチョウ科	ツマクロキチョウ				VU				●	●	●	●	●			●
	14	クハバウカ科	ハクチョウカ				NT						●					
	15	ミスズメ科	オナカミスズメ					VU					●					
	16	タマシ科	ヤマトタマシ					NT										●
	17	オサムシ科	スナハラコムシ				NT						●	●		●		

【4.環境省版レッドデータブック】

絶滅<EX>、野生絶滅<EW>、
絶滅危惧Ⅰ類<CR+EN>
絶滅危惧ⅠA類<CR>
絶滅危惧ⅠB類<EN>
絶滅危惧Ⅱ類<VU>
準絶滅危惧<NT>
情報不足<DD>
絶滅のおそれがある地域個体群<LP>

【5.熊本県版レッドデータブック】

絶滅<EX>、野生絶滅<EW>、
絶滅危惧Ⅰ類<CR+EN>
絶滅危惧ⅠA類<CR>
絶滅危惧ⅠB類<EN>
絶滅危惧Ⅱ類<VU>
準絶滅危惧<NT>
情報不足<DD>
絶滅のおそれがある地域個体群<LP>
要注目種<CS>

2) 生態系の観点から注目すべき生物

生態系の観点より、指標種、「上位性・典型性・特殊性・移動性」の4つの選定基準より抽出した。

- ① 食物連鎖の頂点に位置する種およびその生息環境【上位性】
- ② 当該河川において典型的と考えられる生息生育環境および生物群集【典型性】
- ③ 典型的では把握しにくい特殊な生息・生育環境および、
そこに生育・生息する生物群集【特殊性】
- ④ 広範囲にわたって移動する動物およびその経路【移動性】

さらに選択の条件として以下に示す3つの要素を軸に緑川流域における注目種を選定した。

- ① 選定基準を満足する種
- ② 生態がよく知られている種
- ③ 地域の生態系を保全する種として適切な種

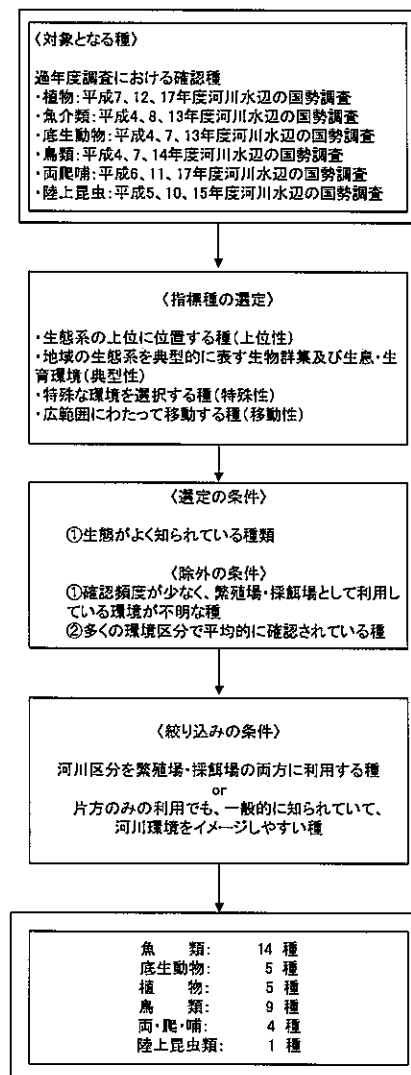


図 2-2 緑川における注目すべき生物種の選定フロー

表 2-4 緑川における注目すべき生物種一覧

No.	項目	種名	選定基準			カテゴリ	出現状況						
			①生態	②繁殖・採餌	③イメージ		緑川				浜戸川	加勢川	御船川
							下流部① (0-8)	下流部② (8-14.2)	中流部 (14.2-30)	上流部 (30～源流)			
1	魚類(13種)	トビハゼ	○	○	○	典型	○				○	○	
2		ムツゴロウ☆	○	○	○	典型	○				○	○	
3		イトモロコ	○	○		典型		○	○	○	○	○	
4		オイカワ	○	○	○	典型		○	○	○		○	
5		カワアナゴ☆	○	○		移動	○	○				○	
6		カワヒガイ☆	○	○		典型/移動		○	○			○	
7		ギンブナ	○	○	○	典型	○	○	○	○		○	
8		スナヤツメ☆	○	○		特殊		○	○				○
9		アユ	○		○	典型	○	○	○	○	○	○	○
10		ウグイ	○	○	○	典型		○	○	○		○	○
11		カワムツ	○	○	○	典型		○	○	○		○	○
12		タカハヤ	○	○		典型/特殊		○	○	○		○	○
13		タナゴ類☆	○		○	移動		○	○			○	
14		ヨシノボリ類	○	○	○	移動				○			
15	底生動物(5種)	アシハラガニ	○	○	○	典型	○				○	○	
16		サワガニ	○	○	○	特殊			○				○
17		クロベンケイガニ	○	○	○	典型	○				○	○	
18		カワニナ	○	○	○	典型			○			○	○
19		ハグロトンボ	○	○	○	典型		○	○			○	○
20	植物群落(4種)	シオクグ群落☆	○	○	○	典型	○						○
21		ヨシ群落(塩沼地)	○	○	○	典型	○				○	○	
22		ツルヨシ群落	○	○	○	典型							○
		メダケ群落	○	○	○	典型	○	○	○				
23		ヒラモ☆	○	○	○	特殊						○	
24	鳥類(9種)	イカルチドリ	○	○	○	典型			○			○	○
25		オオヨシキリ	○	○	○	典型	○	○	○		○	○	
26		カイツブリ	○	○		典型	○	○	○			○	○
27		カワガラス	○	○	○	典型			○	○			
29		ヒバリ	○	○	○	典型	○	○	○			○	○
30		ホオジロ	○	○	○	典型	○		○		○	○	○
31		カワセミ	○	○	○	上位			○			○	○
32		ヤマセミ	○	○	○	上位			○	○			○
33		ミサゴ☆	○	○	○	上位	○		○	○			
34	両爬虫(4種)	アカネズミ	○	○		典型	○	○	○	○	○	○	○
35		カヤネズミ	○	○	○	典型			○		○	○	○
36		テン	○	○	○	典型		○	○	○		○	○
37		ツチガエル	○	○	○	典型		○	○			○	○
38	陸上昆虫類(1種)	ハグロトンボ☆ 特定種	○	○	○	典型			○			○	○

注目すべき種選定基準(指標種よりの選定)

- ①生態がよく知られている種
 ②河川区分を繁殖場・採餌場の両方に利用する種
 ③片方だけの利用でも、一般的に知られていて、
 河川環境をイメージしやすい種

2-4. 特徴的な河川景観及び文化財等

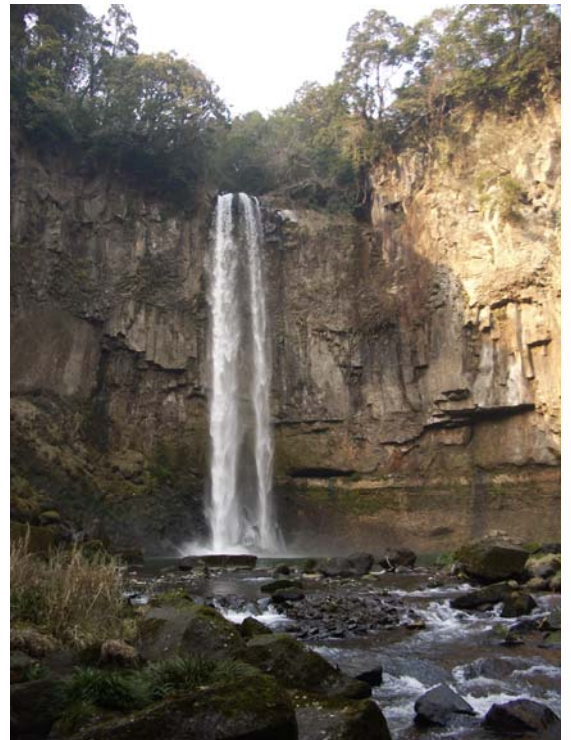
1) 景勝地

緑川流域内の自然公園については、「九州中央山地国定公園」「矢部周辺県立自然公園」「五木五家荘県立公園」が指定されており、これらはいずれも深山や高原地帯と溪谷の自然美ですぐれた景観を呈している。特に矢部周辺県立自然公園は内大臣峡、緑仙峡、五老ヶ滝など緑川上流域に存在する溪谷と阿蘇外輪山からの高原地域であり、新緑、紅葉の時期には観光客でにぎわっている。

これら自然公園のほかにも、江津湖などが景観の優れた場所として知られている。多様な動植物に恵まれ、市民の憩いの場、自然学習の場としても重要な河川空間となっている。



緑仙峡※1



五老ヶ滝※1



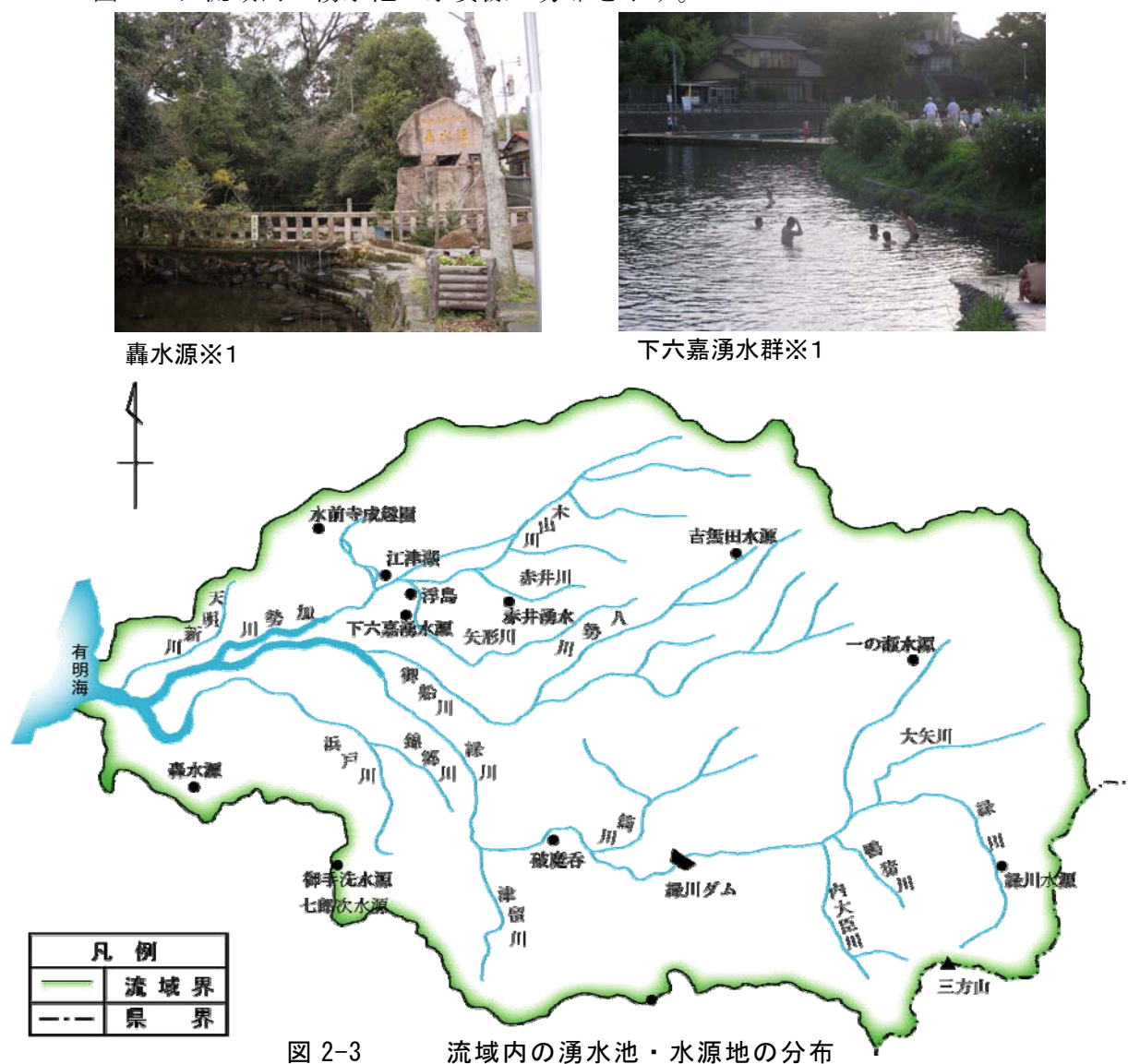
江津湖内湧水公園※1

2) 湧 水

本流域には豊富な地下水脈が存在し、平野部や阿蘇外輪山山麓の洪積台地末端部において、水前寺、江津湖をはじめ多くの湧水や自噴帯を形成している。江津湖は、熊本市街地に位置するが、1日約40万トンの有数が湧き出る全国でも有数の湿地である。希少種が生息する湖沼や湧水池の一つとして環境省から「重要湿地」に選定されている。その他、流域内には、「環境省選定の名水百選」に指定されている宇土市の轟水源が名所としてあげられる。一日約三千トンの轟水源は、細川支藩二代細川行孝公が宇土市入部後、ここを水源とし上水道を作り、今なお300年以上も行き続けている日本最古の上水道であるという歴史が残っている。水源周辺は轟泉自然公園となっており、県外からも訪れる人が多い。

熊本県が選定した熊本名水百選には、浮島、下六嘉湧水群、吉無田水源がある。中でも、浮島、下六嘉湧水群は上益城郡嘉島町に位置し、町内にはその他湧水群が十数か所点在している。町中には湧水のみをそのまま利用したプールがあり、夏は多くの人たちでにぎあっている。

図 2-3 に流域内の湧水池・水資源の分布を示す。



3) 文化財及び史跡

緑川流域には、歴史的に重要な文化財・史跡等が多く、国指定で 17 件、県指定で 32 件の文化財がある。

緑川周辺には、国指定文化財である通潤橋、霊台橋を筆頭に数多くの石橋が存在する。

これらの石橋は、旧街道、往還（集落の道）上に広く分布し、現在でも交通路として利用されているものも多い。

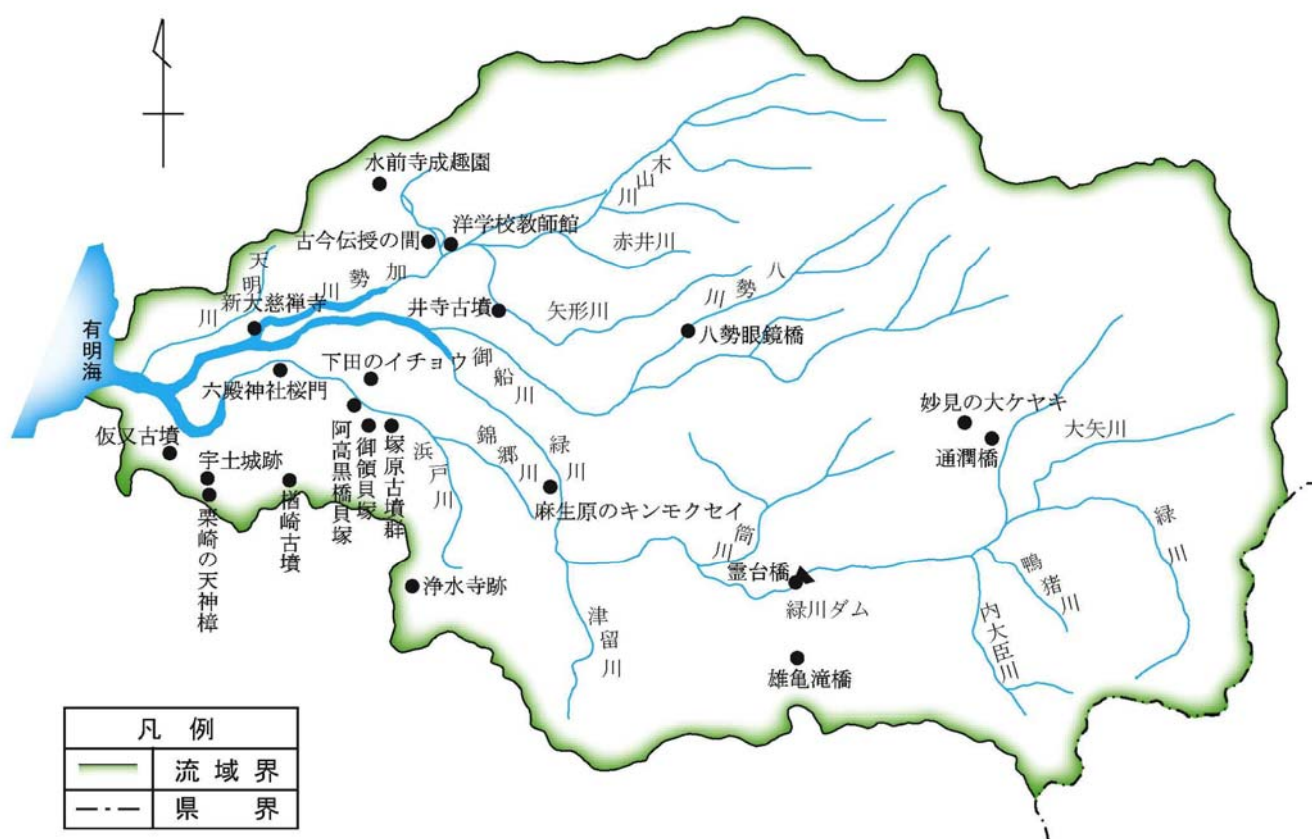


図 2-4 緑川流域の国、県指定文化財分布図



◀ 水前寺成趣園※1

細川御歴代を祀る出水神社の敷地内に、約 360 年前に造られた、桃山式池泉回遊庭園である。阿蘇の湧水で作られた池を中心にして、東海道五十三次を模したみごとな庭園である。

(国指定名勝及び史跡)



◀ 麻生原のキンモクセイ※1

麻生原居屋敷観音の境内にあり、日本一の大きさを誇るキンモクセイで、幹の大きさは 3m もある。

(国指定天然記念物)



◀ 妙見の大ケヤキ※1

幹囲 9m、樹高 33m、樹齢は約 1000 年と伝えられ、根元から清冽な清水が湧き出し、干ばつのときも涸れることがない。

(国指定天然記念物)

※1 国土交通省

熊本河川国道事務所



◀ 通潤橋※1

霊台橋の大工事に続いて1854年に築造された橋長約76mの石橋である。

通潤橋は、豪快な放水で知られ、現在もかんがい用水の通水に利用されている。

(国指定重要文化財)



◀ 霊台橋※1

1847年に築造された熊本を代表する石橋であり、橋長約90mの単アーチ橋としては日本最大の石橋である。

(国指定重要文化財)



◀ 大慈禅寺※1

弘安5年(1282年)に創建された曹洞宗大本山永平寺御直末寺院で、四門首の一つという肥後の名刹である。梵鐘、書蹟、仏像など数多くの文化財を有している。

(県指定文化財)

表 2-1

名 勝 及 び 天 然 記 念 物

種 別		指定年月日	名 称	所 在 地
国 指 定	名 勝 及 び 史 跡	昭和 4.12.17	水 前 寺 成 趣 園	熊本市水前寺公園
	特 別 天 然 記 念 物	昭和30. 2.15	カ モ シ カ	県内生息(緑川源流の山地地帯)
	天 然 記 念 物	大正13.12. 9	スイゼンジノリ発 生 地	熊本市水前寺公園
	〃	昭和 9.12.28	麻 生 原 の キ ン モ ク セ イ	甲佐町麻生原
	〃	昭和12.12.31	下 田 の イ チ ョ ウ	城南町隈庄
	〃	昭和13. 5.31	妙 見 の 大 ケ ヤ キ	山都町浜町
県 指 定	〃	昭和44. 3.20	栗 崎 の 天 神 樟	宇土市栗崎町字天神平353
	〃	昭和44. 3.20	ベッコウサンショウウオ	県内生息(緑川源流)

表 2-2 (1)

名勝及び天然記念物以外の文化財

種 別			指定年月日	名 称	所 在 地
有形文化財	国指定	(重要文化財)建造物	昭和40. 5.27	六 殿 神 社 桜 門	富合町木原
		建造物	昭和35. 2. 9	通 潤 橋	山都町長原
		建造物	昭和42. 6.15	霊 台 橋	美里町清水
		彫 刻	大正 1. 9. 3	木 造 釈 迦 如 来 立 像	美里町甲佐平2110
		工 芸	昭和56. 6. 9	梵 鐘	熊本市野田町508
		書籍・古文書等	昭和27. 3.29	寒 厳 義 伊 文 書	熊本市野田町508
		考古資料	昭和42. 6.15	台 付 舟 形 土 器	城南町隈庄574
		〃	昭和54. 6. 6	肥 後 向 野 田 古 墳 出 土 品	宇土市浦田町
		〃	昭和61. 6. 6	肥 後 阿 蘇 氏 浜 御 所 跡 出 土 品	熊本市
	県指定	建造物	昭和41. 1.31	大 慈 寺 の 層 塔 (永 仁 五 年 銘)	熊本市野田町508
		建造物	昭和41. 1.31	大 慈 寺 の 層 塔 (無 銘)	熊本市野田町508
		建造物	昭和41. 1.31	大 慈 寺 の 宝 篋 印 塔	熊本市野田町508
		建造物	昭和41. 1.31	大 慈 寺 の 宝 塔	熊本市野田町508
		建造物	昭和49.11.19	雄 亀 滝 橋	美里町石野
		建造物	昭和58.10.18	御 船 川 眼 鏡 橋	御船町大字御船
		建造物	昭和59. 3. 3	八 勢 眼 鏡 橋	御船町大字八勢
		建造物	昭和39. 3.10	古 今 伝 授 の 間	熊本市水前寺公園
		建造物	昭和46. 4.21	洋 学 校 教 師 館	熊本市
		絵 画	昭和41. 1.31	絵 本 着 色 出 山 釈 迦 図 絵 本 着 色 観 世 音 菩 薩 図	熊本市野田町508
		絵 画	昭和41. 1.31	絵 本 水 墨 雀 竹 図	熊本市野田町508
		彫 刻	昭和36.11.21	木 造 薬 師 如 来 坐 像 脇 侍 木 造 日 光 月 光 菩 薩 像	山都町下名連石
		彫 刻	昭和36.11.21	木 造 大 日 如 来 坐 像	山都町万坂
		彫 刻	昭和36.11.21	木 造 聖 観 世 音 菩 薩 立 像	山都町島木字峰5582
		彫 刻	昭和36.11.21	木 造 馬 頭 観 音 立 像	城南町東阿高本村 千々屋寺

表 2-2 (2)

名勝及び天然記念物以外の文化財

種 別			指定年月日	名 称	所 在 地
有形文化財	県指定	彫刻	昭和41. 1.31	木造釈迦如来坐像及び両脇侍立像	熊本市野田町508
		彫刻	昭和44. 3.20	木造釈迦如来坐像	宇土市岩古曾根343
		彫刻	昭和44. 3.20	木造阿弥陀如来坐像	宇土市岩古曾根343
		彫刻	昭和44. 3.20	木造薬師如来坐像	宇土市岩古曾根343
		彫刻	昭和63. 3.15	木造釈迦三尊像	御船町辺田見848
		工芸	昭和34. 9. 3	短刀国清	御船町御船207
		工芸	昭和36. 2.15	刀雅楽助	熊本市
		工芸	昭和36. 2.15	鐔平田彦三作鉄三光透	熊本市
		工芸	昭和42. 4.19	なぎなた銘同田貫兵部	熊本市
		書籍・古文書等	昭和40. 2.25	菊池万句	熊本市健軍町北木庭窪1820-19
		書籍・古文書等	昭和53. 2. 2	梶田家文書	宇城市下郷2144
無形文化財	県指定	重要無形文化財	昭和35. 4.22	清和村文楽人形芝居	山都町大平
		重要無形民族文 化財	昭和36. 6.26	宇土の獅子舞	宇土市本町1丁目
		重要無形民族文 化財	昭和36. 6.26	六嘉の獅子舞	嘉島町下六嘉

表 2-3

史 跡・遺 跡

種 別	指定年月日	名 称	所 在 地
国指定	大正10. 3. 3	井寺古墳	嘉島町井寺
	昭和45. 3. 9	御領貝塚	城南町東阿高
	昭和51.12.27	塚原古墳群	城南町塚原
	昭和54. 3.12	宇土城跡	宇土市神馬町
	昭和55. 8.20	阿高黒橋貝塚	城南町下宮地
県指定	昭和34.12. 8	浄水寺跡	宇城市下郷字清水寺
	昭和41. 1.31	大慈禅寺境内	熊本市野田町508
	昭和50.11.11	檜崎古墳	宇土市花園町檜崎
	昭和57. 8.28	仮又古墳	宇土市恵塚町字仮又

2-5. 観光、祭り・イベント

1) 観光

緑川流域内の上流部は、豊かな自然が残っており、緑仙峡をはじめとした風光明媚な観光地や日本一の数を誇る石橋が存在する。緑川の急流がもたらす厳しい自然環境の中で生きた人々の知恵が生み出した石橋文化は、岩石に恵まれたこと、石工の巧みな技等から育まれている。中でも、緑川本流の最難所にかかる日本最大の単一アーチの石橋「霊台橋」や豪快な放水が有名な日本最大の水道橋「通潤橋」は、流域内の石橋の中でも知名度は高く、歴史的名所、観光地となっている。その他上流部に位置する緑川ダムや立岡自然公園は、桜の花見客で春は賑わうとともに、公園やキャンプ場等のレクリエーションの場として利用が行われている。

緑川中流部では、歴史的にも有名な鮎のやな場や、グランドゴルフ、キャンプやバーベキューが楽しめるグリーンパル甲佐、津志田河川自然公園等の河川公園が緑川本川沿いに点在している。

加勢川の源流である江津湖と江津湖河畔に位置する熊本市動植物園は、市民の憩いの場であるとともに、自然学習の場となっている。

御船町には、昭和 54 年に町内で肉食恐竜の化石が発見されたことから、平成 10 年に恐竜博物館が建設されており、家族連れや学校の遠足等で賑わいをみせている。



◀ 通潤橋※1

豪快な放水が人々を楽しませる日本最大の水道橋。
熊本城の石垣と同じ鞘石垣が残る。
(国指定重要文化財)



▲▶ 津志田自然河川公園※1

高水敷ではキャンプやバーベキューを、水辺では水遊びや鮎釣りで楽しむ家族やグループが見受けられる。通称‘乙女河原’と呼ばれている



表 2-6 緑川流域の観光資源一覧

名称	内容
緑川ダム	緑川の洪水調節を主目的に建設されたダム。湖畔には、緑川ダム資料館があり、館内にはダムの歴史、しくみや働き、ダムの周りにすんでいる生き物の事などが楽しく学べる。また、ダム周辺には約1600本の桜があり、春には多くの花見客が訪れる。
通潤橋	1854年(嘉永7)にできた日本最大の水道橋(重要文化財)で、長さは75.6m、高さは20.2m。石橋中央部の放水口から水がアーチ型に豪快に噴出す姿が良く知られている。橋近くの通潤橋資料館では、立体模型や映像で橋の構造を説明している。
霊台橋	緑川にかかる、高さ16m、幅5.5m、全長89.8mの日本最大級の単一アーチ橋。1847年(弘化4)に架けられたもので、国の重要文化財に指定されている。
日本一の石段	3333段の石段を登り、整備された遊歩道を歩いて、頂上までの散策、ハインキングができる。毎年11月の第3日曜日には、石段を利用して、アタック・ザ・日本一宣言タイムレースが開催されている。
アユのやな場	毎年、6月1日の鮎の解禁日から10月末まで、やな場では新鮮な鮎料理を楽しむ人たちで賑わう。竹で編んだ簀に落ちてくる鮎を捕る梁漁は、寛永10年(1933)に肥後藩主細川忠利侯によって作られた水田用水調節の場だった。代々の藩主が毎年取れたての鮎を楽しみに来遊される場所として、広く知られるようになり、今もなお残っている。
グリーンパル甲佐	グラウンドゴルフ専用のコート。24ホール(8ホール×4コース)、総芝生張り。
津志田河川自然公園	通称“乙女河原”として、アウトドア志向のグループやファミリーの人気を集めている。気候の良い時期は、キャンプやバーベキューを楽しむ人々で賑わう。
立岡自然公園	花園池と立岡池を中心とする立岡自然公園には約二千本の桜があり、県内有数の桜の名所となっている。シーズンには“うと花園さくらまつり”も開催され、連日・連夜多くの花見客で賑わう。また、園内には体育センターもあり、キャンプ場やテニスコートなどの施設も利用できる。
江津湖	つながる2つの湖、上江津湖と下江津湖からなる。長さは2.5km、周囲6km、水面の面積は約50ヘクタール。1日の湧水量は40万トン。交通量の多いバイパスや電車通りがすぐ側を通りながら、その豊かな水に貴重な植物や野鳥が育まれ、「水の都熊本市」を実感できる場となっている。
熊本市動植物園	熱帯植物が鑑賞できる大温室のある花の休憩所や、植物について質問できる緑の相談所などがある。芝生が広がり、園内の花畑には春には菜の花、秋にはコスモスが一面に咲くほか、四季折々の花が楽しめる。
御船町恐竜博物館	昭和54年、町内に分布する白亜紀の地層「御船層群」から、肉食恐竜の化石が発見され、日本で最初の肉食恐竜化石産地として注目された。これらの化石資料を収集・調査研究するため、平成10年に開館。町で発見された恐竜の化石や、アロサウルスカスモサウルスなどの全身骨格をはじめとした考古資料を展示している。



▲ 日本一の石段※1

石段建設に昭和 55 年 1 月から着手し昭和 63 年 3 月末に完成した。世界各国の御影石が使用されており、国際親善としての活躍、歴史の探求及びレクリエーション施設としても人気が高い。美里町坂本地内にある。



▲ あゆのやな場※1

やなとは、竹で編んだ葺に、流れてきた鮎が落ちる漁のこと。もともとは、肥後藩主の細川忠利によって設置された水田用水調節のための施設だった。

6 月 1 日の鮎の解禁日から 10 月まで、鮎料理を味わえる。



▲ 江津湖※1

湧水公園には、ぽこぽこと湧き出る様子がうかがえる。広い敷地には数多くの動植物も生育・生息しており、平日は学校遠足の利用、休日は親子連れや子供たちで賑わう。



▲ 熊本市動植物園※1

熊本市内中心部から近く、市民の憩いの場江津湖畔に位置する。園内には、約 130 種類、1,100 頭の動物と約 600 種・4 万本の植物が、訪れる人々を楽しませてくれる。

2) 祭り・イベント

緑川流域では、多くの祭り、イベントが行われている。

期日	行事名	場所	照会先	内容
1月14日	みどり川湖どんど祭り	緑川ダム補助ダム(美里町畝野)	美里町企画観光課 (0964)46-2111	下益城郡みさとまちにある緑川ダム周辺で行われるどんどやのお祭り。日本一のどんどやを目指しており、大きなやぐらを3つ造り、一斉に火がつけられる。3本のやぐらが一気に燃え上がる様子は見事で、その勢いに驚かされる。
2月28日	木原不動尊春季盃大祭	下益城郡富合町	富合町産業振興課 (096)357-4111	修行僧がホラ貝を吹く中で、修験者による火渡り、湯立の荒行が行なわれる。木原不動尊は金錦不動、火伏不動、水引不動の寺院として知られている。家内安全や商売繁盛などを祈る大勢の参拝者で賑わい、熱湯が振りまかれるたびに歓声が上がる。
5月3,4,5日	緑仙峡川開き・釣り大会	緑仙峡	緑仙峡開発振興会	毎年恒例のイベント。ヤマメやマスなどが釣れ、家族連れで賑わう。
5月3,4,日	青葉の瀬川開き	青葉の瀬	上益城振興局	ヤマメ釣り大会や石積み大会などが行なわれ、地元や熊本市内からの参加者で賑わう。また、NPO法人みずのとらBELL隊の協力による、カヌー教室等も開催される。
7月25日	甲佐町あゆまつり	甲佐町緑川河川敷及び商店街一帯	甲佐町観光協会(096)234-1111	緑と清流と鮎の里「甲佐町」。中央を流れる緑川は、鮎どころとして知られている。あゆまつりでは、子供たちによる鮎のつかみ取り大会・手づくりイカダ下り大会(材料・デザイン自由)・総盆踊りや御輿・花火大会など盛りだくさんのイベントがあり、多くの人で賑わう。
7月29日	緑川ダムフェスタ	緑川ダム湖周辺(美里町)	美里町企画観光課 (0964)47-1111	ダム湖探検ミニツアー、木工教室、ダム堤内見学、ソーラーカー組み立てなど、夏休みの思い出作りにはぴったりのイベント。また、夜の花火大会のときは最高の盛り上がりを見せ、夜空で美しく開く花火が湖面に映る光景は格別。
8月4日	嘉島町水の郷まつり	ダイヤモンドシィクレア東側駐車場及び緑川・御船川合流地点	嘉島町企画情報課	花火約1500発。
8月5日	富合ふるさと祭り	富合町緑川河川敷	富合町産業振興課 (096)357-4111 富合町商工会 (096)358-2521	盆踊り、花火のほか、趣向を凝らした催しが行われる。
8月15日	川尻精霊流し	川尻町加勢川河川敷	川尻精霊流し実行委員会 (096)358-6892	百数十年の伝統を持つと伝えられている。日没後、寺院の僧侶による読経が始められ、読経と雅楽の中、加勢川に3,000基の万灯籠が川に流される。その明かりに導かれるように供え物を載せた約200隻の精霊舟が静かに流れ、お盆で迎えた霊を送る。祭りの締めくくりには、仕掛け花火や打ち上げ花火など約1,000発が夏の夜空を彩る。
8月20日	御船があつぱ祭り	御船町御船川河川敷	御船があつぱ祭り振興会事務局(御船町経済振興課内)(096)282-1111	昔から御船川に住みついていたと伝えられる「河童」にちなんで催される、町を代表する夏まつり。町民 総踊大会、アニメショー、ゲーム大会や3000発の大花火大会などで賑わう。
8月23日～24日	うと地蔵まつり	宇土市本町通り一帯	うと地蔵まつり実行委員会(宇土市商工観光課内)(0964)22-1111	約360年以上前に始まったとされる、子供の守り神であるお地蔵様の祭り。宇土市街一帯で自慢の造りものを飾り、技術とアイデアを競う。花火大会や民謡パレードなどの各種イベントも行なわれ、数万人の人出で賑わう。花火は約3000発。
9月2日～3日	八朔祭り	浜町商店街	山都町商工観光課 (0967)72-1158	宝暦8年(1758)、田の神に感謝し、収穫の目安を立てる日とされる旧暦8月1日(八朔)の日始まり、豊作祈願の祭りとして代々受け継がれてきた。呼び物は、竹、杉、すすき、松笠などの自然の材料で各連合組が技術を競い合いながら作られる大造り物で、その年の世相風刺や庶民の願望などを上品な洒落を交えて表現するのが特徴。大造り物が八朔囃子とともに町内を引き廻されるさまは圧巻。
12月	熊本甲佐10マイル公認ロードレース	甲佐町役場スタート～フィニッシュ(甲佐町)	甲佐町教育委員会内ロードレース大会事務局 (096)234-2447	熊本県のほぼ中央に位置する一級河川に沿って数多くの競技者競い合う。日本陸上競技連盟公認ロードレースとして、オリンピックや世界陸上競技などに出場経験のある日本のトップランナーたちが出場し、甲佐町民はもちろん県内外の陸上愛好者に夢と感動を与えている。

2-6. 自然公園等の指定状況

緑川流域内では九州中央山地国定公園、矢部周辺県立自然公園、五木五家荘県立自然公園が自然公園に指定されている。

九州中央山地国定公園は熊本、宮崎両県境にまたがる九州山地一帯が指定されており、本流域内には県内最高峰の国見岳が含まれる。

矢部周辺県立自然公園は指定地域が全て流域内に含まれ、本川上流の溪谷と阿蘇外輪山の高原地域からなる。なお、本指定地域には、自然美の豊かな緑仙峡、内大臣峡が存在する。

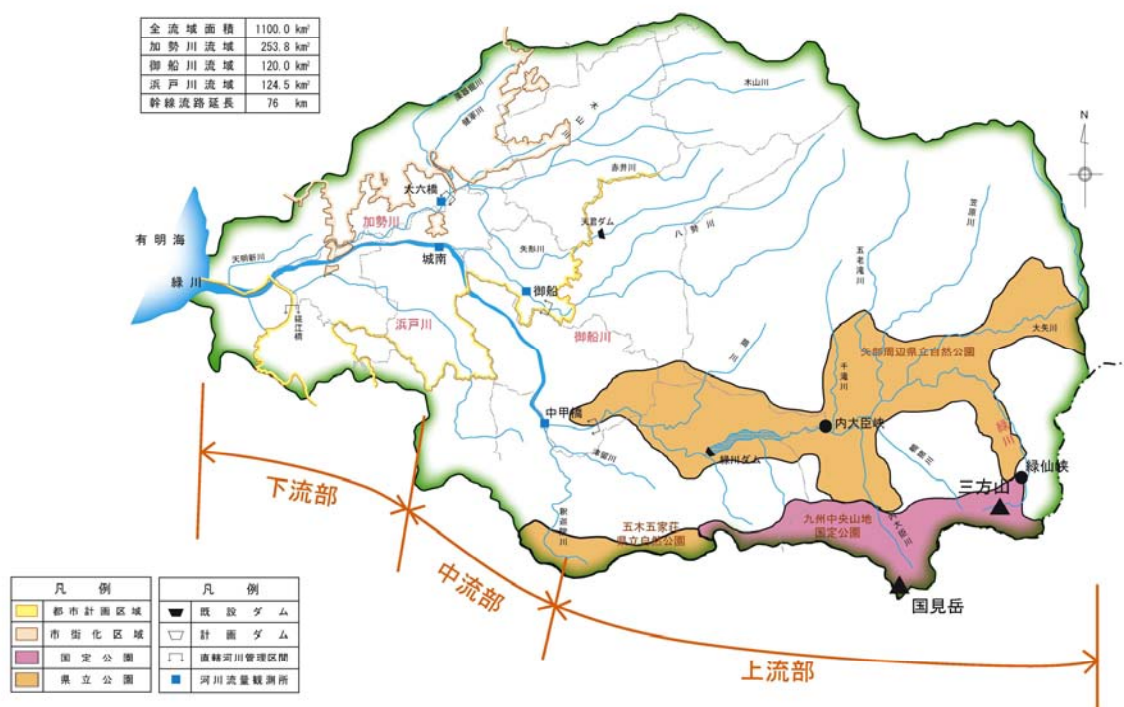


図2-5 緑川流域に係る指定図